



(上) 独力で発掘収集した土器や植物標本、秋神地方の自然風物の写真等、貴重な資料が展示されている資料室内

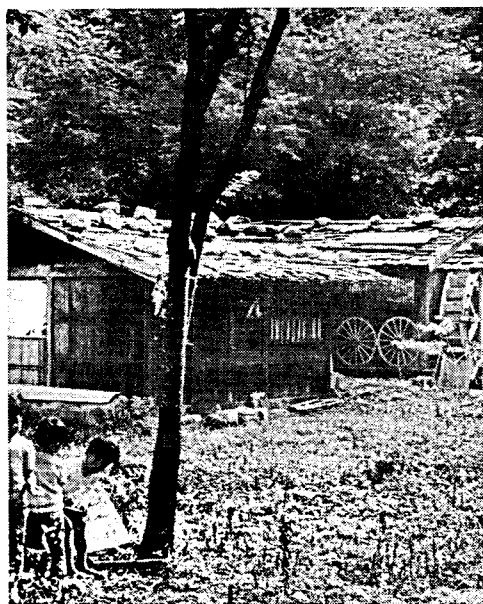
(右) 消えゆく秋神地方の水車小屋を買い上げ復元、屋内には、岐阜県重要民俗資料指定、わらび粉製作用具36点が保存されている。

館・園紹介 No. 9

秋神温泉 山村資料室

大野郡朝日村胡桃島、秋神温泉内
〒509-21 TEL秋神局(057704)21

人間博物館「小林 繁」さん!!



御岳山の北西山麓、秋神川流域最奥の部落「胡桃島」よりさらに上流に、たった一軒きりの静かな秋神温泉旅館がある。傷つけられることもなく、すくすくと伸びた美しい白樺が印象に残るだけでなく、トチノキの巨木をはじめ、周辺 naturally 樹木には全てラベルがつけられ、ミズバショウ、クリソウ、スズラン、など季節の花々の大群生もあり、さながら一帯が自然植物園である。玄関前の小山の斜面には、見事なカラマツ林もあり、その中を通る歩道のいたるところには、山の自然風物の解説版、小動物や小鳥の彩色図板もかかけられ、入口には『小鳥の村』なる標識が立っている。

素朴で明るい秋神温泉旅館の御家族は、老夫婦はじめみんなが自然愛好家で、とりわけ若主人小林繁君は、生きた人間博物館である。何度も何度も通いつめて、とうとう許されて雲水の修行までしたことのある彼は、何ごとともことなまでやり抜く主義、旅館経営者だけに終わることなく、その鋭い目は、常に周辺 naturally 自然に向けられている。四季折々移り変わる自然の姿を追って、山村を駆けめぐる彼の体には、昆虫、動物、小鳥、植物といった生物の知識だけでなく、秋神地方に伝わる民俗風習、そして、遠い先住民族の生活にいたるまで、限りない体験と知識が積み重ねられており、その博学振

りには、ただ驚かされるばかりである。そんな彼を中心とした家族のみなさんは、消えていく秋神地方の民俗資料を残そうと、水車小屋を買い上げ、旅館の上手に移築復元、わらび粉製作に使われた各種用具もコツコツ収集され、それをかってこの地がわらび粉の産地として盛んだった当時のまゝに配置展示されて、訪れる人々に無料公開されている。

耕地整理でダメになる……とわかると私財を投じてアルバイト学生をやとい、自ら先頭立って住居跡を発掘し、縄文時代の貴重な考古資料の保存に努めるといったぐあい、彼の部屋には、いつしか土器片、石器、あるいは各種の記録写真、標本等が足の踏み場もないように集まっていた。旅館を改築した折に、一室を資料室として設け、お客さんに自由にみていただくようにしたもので、まだまだ整備の途中ではあるが、個人の収集といえど、なかなか貴重で優れた資料室である。室内の書棚には、彼の書物がピシリ並び、図鑑、動植物関係、考古学、山岳関係と、実に巾広い参考文献がある。またこの資料室は、夜になると、宿泊客を集めて、秋神地方、御岳山の、四季折々の自然風俗を紹介する、カラーズライド上映室にもなっている。まさに小っちゃな自然教室でもある。

高山本線久々野駅下車、バス 秋神温泉行 1日3本、1時間15分、自然について、実に豊富な生きた体験の持ち主、小林繁君の話の聞くだけでも、訪れる人々は、何か大きな人生勉強になるものを得るにちがいない。ぜひ一度、お出かけ下さい。(写真・文、小野木学芸員)

旅館経営と資料室のあり方

秋神温泉旅館経営主 小林 繁

最近、新聞やテレビで、自然環境の保全とか緑の回復とかが大きな問題となっております。自然とともに誕生し、自然とともに生きて発展してきた私たち人類が、科学技術の進歩とともに都会の文明砂漠の中で精神的にも物質的にも痛めつけられている今日、私どもの飛驒の山国の自然風物が、どんなに人々の心の慰みになるかは説明するまでもないでしょう。

そうした国民の共有財産でもある尊い自然の宝は、いたずらに観光開発などといって破壊しつくしたり、営利本位の利潤追求のためだけに利用してはならないでしょう。

あれは昭和36年の春でした。近くの沢に群生するミズバショウの花の保護について、岐阜大学の堀教授にご相談申し上げたことがきっかけとなり、昭和38年までの3年間、岐阜大学の学生さんが植物生態調査で、私どもの旅館に滞在されました。それがきっかけとなり、旅館の周辺一帯の自然樹木、草本等の解説板も整備され、植物標本も多く収集されました。カラーズライドもたまりました。昆虫好きだった私も、いつしか植物についてもかなりの知識を持つようになり、自分でも撮影をはじめました。

そうして、夜は、ほとんどのお客さんたちの食事が終わると、一室に集まってもらい、四季

折々の秋神地方の自然風景や動植物、御岳山の高山植物の紹介をカラーズライドで行うようになりました。たとえ2人3人の泊り客の時でも、ほとんど連日上映で休んだことがあり



ません。自然に接する機会の、ますます少なくなる都会からのお客さんからは好評です。そこで、私どもは、ただ泊まって周辺の自然に接していただくだけに終わることなく、真に自然との対話のできる環境にしようと、細々ながら、資料室を作ることにしたのです。堅苦しい部屋でなく、ゆったりとくつろいでいただく応接間としての雰囲気を残しつつも、知らず知らずのうちに、自然とか、民俗風俗に興味を持っていただけるような部屋にしようとしているのです。

この部屋で安らいで下さった人々が、帰りには、ここへ来た時よりも、自然と人間とのかかわり合いに、少しでも深い関心を持って下さるのなら、それで充分です。自然こそは、人間の生涯の最良の恩師なのですから。

ソビエトの博物館(1)

岐阜県博物館協会事務局長、文学博士 吉田幸平

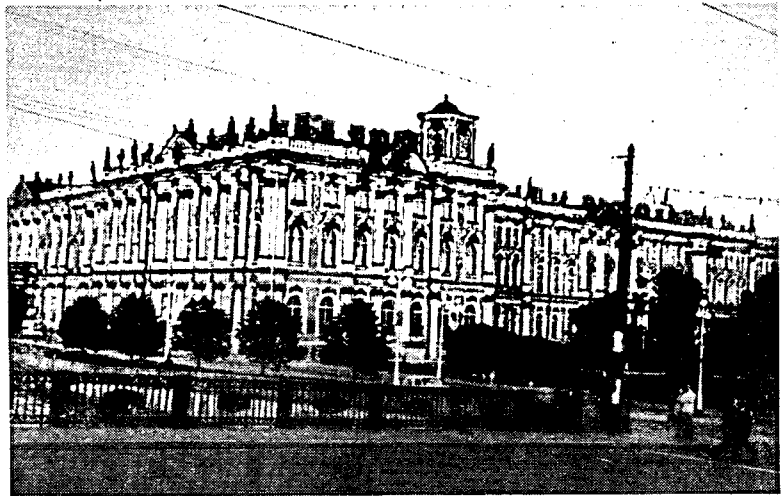
七月から八月にかけて、約一ヶ月間、ソビエト及びバルト三国の博物館を見学することができたので、その概略中一・二の博物館について述べたいと思います。

ソビエト社会主義連邦が、数百年に亘る農奴制の開放と、ツァー制の専政に対する社会主義革命を達成したプロレタリアの独裁国であるだけに、数多くの博物館や社会教育施設

がある。総て国家統制下の国立であるということであり、マルクス・エンゲルス主義のもと、共産主義の確立のための教育の方法論としての存在であるということはいうまでもない。革命のために教会(ギリシャ正教)弾圧という悲劇は、その膨大な教会建築物の九〇%が、宗教博物館やコーラス・ホール等の社会教育施設に変貌しているのであり、博物館はまさに無数にあるといっても過言ではない。

モスクワだけでも、博物館は1,500もあり、その中の主なものを列記しても、

- クレムリン武器官殿 ● 中央レーニン博物館
- マルクス・エンゲルス博物館
- 歴史博物館 ● 革命博物館
- トレチャコフ美術館 ● ブーシキン美術博物館
- モスクワ歴史と建設博物館
- オスタンキノ農奴芸術博物館
- ボクロフスキー大寺院博物館
- ノボデービッチー女子修道院
- シチュセフ・ロシア建築博物館
- 東洋文化博物館 ● 工芸博物館
- 中央ソビエト軍博物館 ● プラネタリウム
- ソ連科学アカデミー植物園
- ブーシキン博物館 ● チューホフ博物館
- レフ・トルストイ博物館及び家、



レニングラード エルミターージュ国立美術博物館

- ドフトエフスキー博物館
- マヤコフスキー博物館 ● 民芸博物館
- グリンカ音楽博物館 ● 文学博物館
- 労働保護博物館
- エム・イー・カリニン博物館
- 画家ワスネツォフ博物館
- 建築博物館 ● 動物学博物館
- 人類学博物館 ● ダーウィン博物館
- チミリヤゼフ生物学博物館
- バフルーシン演劇博物館
- スタニスラフスキー博物館
- N・A・オストロフスキー博物館
- ドワーロフ教育センター etc がある。

いずれの都市に行っても、博物館・美術館が、人口に比例して設置されており、とても資本主義国では想像もできないほどの数の多さで、大学附属の博物館なども含めたら、その数は全く驚異的である。

だが、総てが革命的ばかりとはいえない点もある。たとえば、英雄都市レニングラードでは、ピートル大帝やエカテリナ女帝の収集品等、革命前のもも博物館で保存され、街にはその銅像(青銅の騎士像)等、その大帝や女帝の功績も必ず顕彰している点も、見逃がしてはならないことである。(つづく)

≡ 県内ニュース ≡

白川郷合掌村 仮オープン ただいま無料

昭和42年かずら部落が集団離村することになったのを契機に、民家4、はさ小屋1、唐白小屋1、便所3、倉2（うち1棟を事務所に使用）を移築した。将来は生活様式のまゝ原型に復したい希望で、今は民具を展示中。正式オープンは来春の予定で、ただいま仮オープンのため無料。管理所長土橋吉雄氏、外に従業員2人。村立。電話は申し込み中で、いまのところ、鳩谷局1番、役場観光課。

連絡先は〒501-56 大野郡白川村荻町小呂
白川郷合掌村管理事務所へ

明善寺庫裡郷土室へも お出かけ下さい

白川郷でぜひ見ておきたいものに明善寺がある。茅葺（かやぶき）の鐘楼門（重要文化財）の奥に同じく茅葺のおみ堂があり、その左に重要文化財指定の合掌造りの庫裡がある。これをそのまゝ郷土館として公開し、二階三階に若干の民具が展示されている。大人50円、小人30円、屋内写真5枚まで30円、以後5枚増すごとに20円、50人以上の団体は10円引き。

奥さんの説明が名調子でいただける。隣りに合掌造りの唐白小屋や民宿がある。

〒501-56 大野郡白川村荻町676

TEL 鳩谷 9番

飛驒民俗村に 山岳資料館オープン

高山市では、観光事業のひとつとして、民俗村の中に山岳資料館の建設を進めてきましたが、いよいよ11月1日オープンします。

古い高山測候所の建物を移築整備したもので、「自然と人間」をテーマに、雄大な北ア連峰の植物・動物標本の展示、写真パネルによる展示、古文書、民具など登山とその歴史、スキー、登山用具の展示など、飛驒山岳会の会員たちの協力によって集められた資料が公開されています。

従来、やゝもすると歴史民俗に片寄りがあった飛驒地方の諸施設、とりわけ高山市の民俗村の中に、こうした恵まれた飛驒の山岳自然に関する資料館がオープンしたことは、よろこばしいかぎりです。今後のますますの充実を期待したいものです。

〒506 高山市西之一色町 飛驒民俗村内

〔編集後記〕 ◎前号でお約束しました吉田先生のソビエトの博物館紹介を、二回にわけておとどけ致します。その数だけでなく種類の多さにも、ただ驚くばかりです。経済大国—DNP世界第二位だけが人間の幸せではないはず。県下の各館・園、諸施設も、お互いに手を取り合い、人間の精神的幸福のために、いっその充実を務めようではありませんか。

◎県内ニュースを充実させたいものです。各館園のささいなことでも、どんどんご連絡下さい。お互いの情報交換の場として。（小野木学芸員）

岐阜県博物館協会総会の案内

当協会の定例総会を下記のごとく開催致しますので、多数ご出席くださいますようお願い致します。

☆期 日 昭和46年11月21日（日）

☆集合場所 国鉄岐阜駅前西広場

☆集合時刻 午後1時

（エーザイ川島工園のご好意により往復バスにて送迎していただけます）

☆場 所 羽島郡川島町 エーザイ川島工園
内藤記念館会議室。

※自家用車でおいでの方は、№9に同封致しました内藤記念館のパンフレットをご覧下さい。地図が出ております。

“内藤記念くすり資料館”見学会！！

当総会に先立ち、本誌№9でも紹介致しました内藤記念くすり資料館の見学会をもちます。すばらしい施設と、医薬に関する貴重な実物資料の数々に接することのできる、またとないチャンスです。各館・園会員の方はもちろん、どなたでも自由に参加していただけますので、見学希望の方は、多数お誘い合いのうえ、左記集合時刻までにお集まり下さい。

（事務局より）各館・園会員の方々は、出欠を同封の葉書にて、至急お知らせ下さい。べ切は11月15日。